

有機栽培「あさのか」の網もち病の発生低減技術

感染時期である8月下旬までに新芽を硬化させることで網もち病の感染低減が可能

背景・目的

- ・本県育成品種である「あさのか」は炭疽病や輪斑病に強く、有機栽培に適する品種
- ・一方、発病後の対応が困難な網もち病に弱く、常発ほ場では銅剤等による防除が必要だが、薬剤散布ができない事例も存在
- ・耕種的防除法について本県での報告が少なく、有機栽培促進のためには薬剤的防除法以外の情報が必要

成果の内容

- ・感染時期(8月下旬)までに新芽を硬化させれば、網もち病の発生は減少
- ・感染時期までに新芽を硬化させるためには、二番茶後に浅刈り、もしくはせん枝せず、7月下旬までに三番茶を摘採(図1)
- ・二番茶後の深刈りなどで、感染時期に新芽が硬化しない場合は銅剤散布で網もち病の発生は抑制可能(表1)

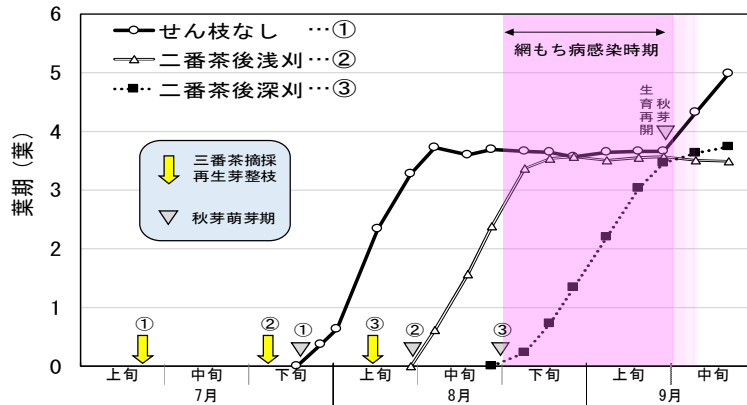


図1 整せん枝処理と新芽生育期間の関係

表1 整せん枝処理と秋芽防除が網もち病の発生程度に与える影響

処理年度	試験区名	せん枝時期	摘採・整枝	秋芽防除	病葉数(枚/m ²)	発生程度
2018	せん枝なし	—	三番茶摘採(7/9)	無し	59.3 (9)	中
	二番茶後浅刈	6月中旬(6/16)	三番茶摘採(7/24)	〃	178.0 (28)	中
	二番茶後深刈	〃	再生芽整枝(8/6)	〃	640.0 (100)	多
2020	浅刈-防除	6月下旬(6/26)	三番茶摘採(7/29)	有	35.0 (2)	少
	浅刈-無防除	〃	〃	無し	264.3 (19)	中
	深刈-防除	〃	再生芽整枝(8/5)	有	19.7 (1)	少
	深刈-無防除	〃	〃	無し	1413.7 (100)	甚

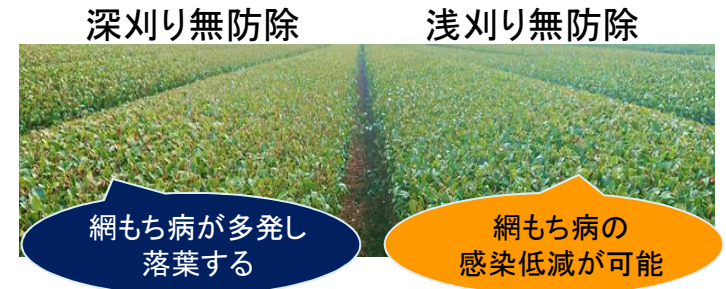
銅剤散布で防除は可能

注1)浅刈りは二番茶摘採より3cm程度、深刈りは二番茶摘採より20~30cm程度切り下げた位置で行った
 2)秋芽防除(2ボルドー400倍希釈)は秋芽1葉期頃及び3葉期頃の2回行った
 3)(○/○)は処理日を、()は深刈-無防除を100とした場合の指数

期待される効果

○有機栽培「あさのか」での網もち病の発生抑制

⇒ 有機栽培「あさのか」の生産安定



本県育成品種「あさのか」の特性を生かした有機栽培の普及促進

○普及対象・範囲 県内「あさのか」生産者 網もち病の常発地帯

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部栽培研究室